

## 漢詩の形式

六朝(りくちょう)～唐の初期に成立した近体詩と、それ以前の古体詩に分けられる。古体詩は偶数句末に押韻するほかは制限が少ない。近体詩となって、平仄・対句などの表現技法が固まった。近体詩には、五言絶句・七言絶句・五言律詩・七言律詩・**排律(長律)**がある。長律は律詩の規則に従って、一二句、一六句、それより長いものがある。現代詩として、白話詩(口語詩)があり、これは表現上のきまりはない。

### 押韻(おうえん)

五言の場合は**偶数句に押韻**。

七言の場合は**偶数句 + 一句目も押韻**。たまに、一句目を押韻しないものもある。

### 平仄(ひょうそく)

近体詩において、中国語の四声を、平韻(平声)と仄韻(上声・去声・入声)に分類し、詩のなかでこういった順序で使われるかきまりがある。訓読時には全く関係ない。

### 句の切れ目

五言詩は、上二字と下三字で構成される。

七言詩は、上四字と下三字で構成される。上四字はさらに、二字 + 二字に切れる。

### 対句

対句とは、似たもの、反対のものを並べて、対照的に表現する技法。

律詩の場合は、頷聯と頸聯が必ず対句になる。ただし、ほかの聯も対句になる場合がある。

### 構成

詩は二句でまとり、四句で大きくまとまる。(古詩などに6句でまとまるものあり。)

**※○は漢字一字、◎は韻字を表す。**

五言絶句(五字一句として四句で構成。)

起句 ○○ ○○○

承句 ○○ ○○○◎

転句 ○○ ○○○

結句 ○○ ○○○◎

七言絶句(七字一句として四句で構成。)

起句 ○○ ○○ ○○○◎

承句 ○○ ○○ ○○○◎

転句 ○○ ○○ ○○○

結句 ○○ ○○ ○○○◎

五言律詩(五字一句として八句で構成。)

起聯(きれん) ○○ ○○○ ○○ ○○○◎

頷聯(かんれん) ○○ ○○○ ○○ ○○○◎ (頷聯の二句は必ず対句)

頸聯(けいれん) ○○ ○○○ ○○ ○○○◎ (頸聯の二句は必ず対句)

結聯(けつれん) ○○ ○○○ ○○ ○○○◎

※ 首聯・前聯・後聯・尾聯ともいう。

七言律詩(七字一句として八句で構成。)

起聯 ○○ ○○ ○○○◎ ○○ ○○ ○○○◎

頷聯 ○○ ○○ ○○○ ○○ ○○ ○○○◎ (頷聯の二句は必ず対句)

頸聯 ○○ ○○ ○○○ ○○ ○○ ○○○◎ (頸聯の二句は必ず対句)

結聯 ○○ ○○ ○○○ ○○ ○○ ○○○◎

以上

参考文献:「新総合国語便覧」稀賀敬二ほか監修、第一学習社(1991)